

第2回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会 議事録

1. 日時:平成25年10月2日(水) 10:00~12:00

2. 場所:一般社団法人 日本自動認識システム協会 B会議室

3. 次第:

- | | |
|-------------------------------|------|
| 1. 開会の挨拶 | 事務局 |
| 2. 配布資料の確認 | 事務局 |
| 3. 議事 | |
| 1) 委員長挨拶 | 委員長 |
| 2) 前回議事録確認 | 事務局 |
| 3) 作業委託/調査委託について(口頭) | 事務局 |
| 4) IdMにおける共通本人認証基盤の検討状況報告 | 中村委員 |
| 5) 委託調査計画について | 中村委員 |
| 6) Biometrics 2013 技術と市場の動向調査 | 瀬戸委員 |
| 4. 事務連絡 | 事務局 |
| 1) 今後の日程 | |
| 2) 写真撮影など(適宜) | |

4. 出席者:(敬称略)

- | | | |
|---------|-------|------------------------------|
| ・委員長 | 半谷精一郎 | 東京理科大 工学部電気工学科 |
| ・委員 | 瀬戸 洋一 | 首都大学東京産業技術大学院大学 産業技術研究科 |
| ・委員 | 中村 敏男 | (株)OKI ソフトウェア 企画室 |
| ・委員 | 寶木 和夫 | 産業技術総合研究所 セキュアシステム研究部門 |
| ・委員 | 菊地 健史 | (株)日立ソリューションズ プラットフォーム ログ外本部 |
| ・委員 | 福田 充昭 | (株)富士通研究所 ソフトウェア技術研究所 |
| ・委員 | 平野 誠治 | 凸版印刷(株) 情報コミュニケーション事業本部 |
| ・委員 | 山田 朝彦 | 東芝ソリューション(株) IT 研究開発センター |
| ・委員(代理) | 溝口 正典 | 日本電気(株) 第二官公ソリューション事業部 |
| ・オブザーバ | 岩永 敏明 | 経済産業省 産業技術環境局 情報電気標準化推進室 |
| ・事務局 | 酒井 康夫 | (一社)日本自動認識システム協会 |

5. 配布資料

- | | |
|------|-----------------------------------|
| 資料1: | 第2回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会アジェンダ |
| 資料2: | 第1回 IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会議事録(案) |
| 資料3: | IdMにおける共通本人認証基盤の検討状況報告 |
| 資料4: | 委託調査計画 |
| 資料5: | 西宮市情報センター出張報告 |
| 資料6: | IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究補助事業 スケジュール |
| 資料7: | Biometrics 2013 技術と市場の動向調査 |

6. 議事内容

1) 前回議事録確認

事務局より、資料2を用いて、第1回IdMにおける共通本人認証基盤の開発研究委員会議事録(案)が報告された。山口委員と山田委員の所属の記載誤りを修正し、議事録として承認された。

2) 作業委託/調査委託について

事務局より口頭にて、第1回委員会にて各委員に説明と依頼された下記の見積り依頼結果について報告があった。報告内容は下記。

①作業委託： 「共通認証基盤全体のプロトタイプの開発」と「システム性能評価」ならびに「検証実験」に関する作業委託

見積り回答があった会社は1社。日本自動認識システム協会内で検討し、当該1社に対して作業委託することに決定し、作業委託契約をした。

②委託調査： 「応用システムへの組み込みのためのセキュリティ機能の調査研究」に関する調査委託

見積り回答があった会社は1社。日本自動認識システム協会内で検討し、当該1社に対して調査委託することに決定し、調査委託契約をした。

3) IdMにおける共通本人認証基盤の検討状況報告 (詳細は資料3を参照のこと。)

中村委員より、資料3を用いて、バイオIdM共通本人認証基盤システムの検討状況報告として、「SAML技術によるSSO機能の実現方法の検討内容」について検討状況のご報告と今後進め方のご提案があった。この中で、前年度開発内容、SAML技術を含んだOSS、トラストサークルの考え方、WSO2 Identity Serverを用いたSAML技術によるSSOシステム構成案について説明された。本件は、特に問題なく承認された。

次に委託調査として実施している「応用システムへの組み込みのためのセキュリティ機能の調査研究内容」についても検討状況のご報告と今後進め方のご提案があった。

この中で、OpenIDを用いた処理の流れとして、(案1) 端末生体認証+パスワード送信、(案2) 端末生体認証+認証結果送信、(案3) 端末生体認証+ACBio送信、(案4) サーバ生体認証、(案5) ACBioつきサーバ生体認証の5案について説明された。

これ以外の構成があるようであれば、中村委員までご連絡いただくよう各委員に要請があった。

また、セキュリティ機能検討の手順として、次の3ステップで進めること、ならびに前述の5案のいずれか適切なものを選択して生体認証を適用し、適切なセキュリティ機能を用意することで進める方針が提案された。

ステップ1： 対象アプリケーションとして「西宮市被災者支援システム」または想定震災アプリケーションへの実装機能の検討

ステップ2： 電子認証システムにおける本人認証の考え方の適用 (OMB 04-04, NIST SP 800-63)

ステップ3： 生体認証技術を適用するための検討

本件は、質疑応答の結果、次の修正をすることで承認された。

(1) (案5) ACBioつきサーバ生体認証の場合は、⑨と⑩の処理中の「(ACBio?)」を削除

(2) (案5) ACBioつきサーバ生体認証の場合は、⑨の処理の認証結果に「ACBioを用いて検証したという情報を含める」ことは有効なので、SAMLのプロトコルの中に拡張仕様があって認証手段の情報を含むことができるのであれば、SAMLの規格の中で処理ができるので、それができるかを調査する。

[質疑応答の内容]

C1: (案5) ACBioつきサーバ生体認証の場合は、⑩の処理にACBioが入っているがいらなと思う。ここではACBioがクライアント側でデータをキャプチャして、例えばシグナルプロセッシングをして、そういったデータと共にACBioが送られる。その行為が正しく実行されていることが右側のBioIDM Providerで検証されて、その部分の処理の正当性が確認されているので、あとは通常のバイオトリック処理に戻り、ACBioに関係のない世界で処理を進めることで良いと思う。⑨の処理にもACBioは必要ないと思う。ただACBioを使ってBioIDM Providerで検証したという情報を送ることは有効だと思う。

4) 委託調査計画について

中村委員より、資料4を用いて、バイオIdM本人共通認証基盤事業における委託調査計画について説明があった。(詳細は資料4を参照のこと。)

説明内容は下記。

- ・委託調査は次の4項目を行う予定である。
 - (1)初期調査
 - (2)セキュリティ技術調査
 - (3)応用システム調査
 - (4)応用システム向けセキュリティ研究
- ・これらは、被災者支援システムを開発している西宮市情報センターとコンタクトしながら具体的なシステムを念頭に置いた調査を考えている。
- ・先ほどの「IdMにおける共通本人認証基盤の検討状況報告」の中で行った「応用システムへの組み込みのためのセキュリティ機能の調査研究内容」についても検討状況のご報告は、このうちの初期調査にあたるものである。
- ・スケジュールは委託調査計画による。西宮市情報センターとは、3回の情報交換を予定し、調査内容の充実を図る予定である。

次に、日本自動認識システム協会より、資料5を用いて、委託調査の一環として実施した「西宮市情報センターとの第1回目の打合せ内容」について報告があった。(詳細は資料5を参照のこと。)

報告概要は下記。

- ・兵庫県西宮市情報センター「被災者支援システム」全国サポートセンター センター長 吉田 稔殿と面会。
- ・被災者支援への生体認証の活用を、特定のベンダに依存することなくオープンな形で推進するというバイオIdM共通認証基盤プロジェクトの主旨についてご理解いただき、本プロジェクトとの連携について前向きな感触を得ることができた。
- ・年度内の2回の打合せについて同意を得ることができた。
- ・災害支援システムの検討にあたって考慮すべき点について知見が得られた。
 - －生体認証適用を被災者の視点で捉え、利益を求めないスタンスが重要
 - －生体認証の適用が有効な場所として避難所が考えられること、など
- ・各種団体やベンダ等から災害支援システムへのバイオメトリクス連携についてコラボレーションの問い合わせが多数あるとのこと。(被災者支援システムへの生体認証の適用について産業界や学会などからすでに様々な動きがあることが確認できた。)

審議の結果、ご提案内容にしたがって進めることが承認された。(提案詳細は資料4を参照のこと。)

[質疑応答の内容]

- Q1: 提案したシステムは平常時に何かに使われるものか。つまり、平常時に使っており、非常時にも使えるというものか。
- A1: 非常時対応のシステムとして考えている。
- C1: 非常時だけのシステムだとコストが掛かるので、平常時に使っており、非常時にも使えるというシステムが良いと思う。
- AC1: 平常時に使っており非常時にも使えるというシステムとなると、普段から市民が生体情報を登録するというシステムになる。これは、現状ではなかなか市民の理解が得られず、対策が最優先となる場合は理解が得やすいと考えたため、非常時システムとして取り組んでいる。
- C2: 番号制度など一緒にすると良いかもしれない。
- Q2: 被災者支援システム バージョン4.0.1は自由に入手できるので、それを利用して生体認証を利用したサンプルを構築することは可能で、それを旨とする。そのシステムは災害が起きた時に立ち上がるものとの理解で良いか。
- A2: その理解でよい
- C3: NPO のようなもので、「災害時にあなたを証明します」として平常時に市民の生体情報を登録・収集し、災害時にそれを使って本人を証明するような本人認証サービス・ビジネスもあるかもしれない。これであれば、民間で自由にできる。例えば、スマホなどのキャリアのサービスの一環として用意するなどもあるのではないか。
- あるいは、自然に生体情報がたまるシステムと連携するなどよいと思う。例えば出入国システムのデータとの連携など。
- C4: 常時だけのシステムであるが、そのためだけに生体認証装置を用意してもらうということは、現実的には難しいと思う。そのため、平常時に使っている生体認証装置を災害時に利用してもらうようなシステム構成を考えると、災害時に災害対策用途として提供される機器を利用してシステムを組み上げることは重要だと考える。その観点から見ても、スマホなどのキャリアにサービスの一環として用意してもらい、災害時にスマホを使って本人認証をするようなシステムを考えることは有効だと思う。
- C5: 携帯電話の顔認証を使うなども有効ではないか。
- Q3: 被災者支援システムはインフラが整わない時、一時的にスタンドアロンで動くというものか。
- A3: 現在の被災者支援システムは、被災証明の発行などの機能を持っており、被災者情報と住民台帳との連携などを行うためネットワーク環境を前提としているようである。

5) Biometrics 2013 技術と市場の動向調査

瀬戸委員より、資料7を用いて、前回の第1回委員会にて事務局より代読でご説明、ご提案し承認された瀬戸委員の英国 BC コンファレンス 2013 海外調査内容について、ご本人より再度説明をいただいた。瀬戸委員に海外調査に行っていたことが再確認された。

7. 事務連絡

1) プロジェクトスケジュールについて

事務局より資料6を用いて、プロジェクト全体スケジュールについて再度説明された。

2) 次回以降の予定等

事務局より第3回の委員会の予定について12月4日ないし11日という提案があり、後程事務局にて調整することとなった。

以上